令和元年度
秋田県立仁賀保高等学校

公開授業研修会

期日　令和元年12月4日（水）

日程
受付　13:00 ～ 13:25
公開授業　13:30 ～ 14:20
教科別協議会　14:35 ～ 15:45
全体会　16:00 ～ 16:40

■研修主題

「他者とのかかわりで気づいた事を、
自らの言葉で表現する授業の実践」

☆授業を実践するにあたっての留意事項

授業改善の視点 … 目標の焦点化、
見通しのフロー化、
思考の見える化、
“２か４”（ペア・グループワーク）

道徳教育の視点 … 聞く姿勢

■公開授業

教科	科目	単元・題材	クラス	授業者	教室
(芸術) 音楽	音楽Ⅰ	わたしたちの和楽器　琴	1年A組	阿部 慎太郎	音楽室
(外国語) 英語	コミュニケーション英語Ⅰ	Lesson 4 The Olympics	1年B組	菅原 英明	1年A組
情報	情報の表現と管理	画像の制作と編集	1年C組	小西 一幸	1年C組

■教科別協議会

教科	指導助言者	司会者	記録者	会場
(芸術) 音楽	秋田県総合教育センター　主任指導主事 阿部智博　先生	小柳　順	菊地陽介	図書館
(外国語) 英語	秋田県立秋田北高等学校　教育専門監 杉田道子　先生	畠山陽子	高橋裕子	会議室
情報	本校教頭　亀沢　覚	早藤素史	金子　聡	視聴覚室

※協議グループ（付箋紙式ワークショップ型）

音楽１班　象潟中 松橋郁子先生、　齊藤芳徳(班長)、小柳　順、佐藤朋紀、菊地陽介

英語１班　月本晴子(班長)、高橋裕子、佐々木勝則、大坂充孝、坂本真道

英語２班　湊　裕　朗(班長)、太田弘史、畠山陽子、冨野晶子、渡辺拓人

情報１班　藤田隆史(班長)、金子　聡、渡辺吉幸、佐々木　徹

情報２班　早藤素史(班長)、藤原成美、松井智彦、三浦憲二

～ 芸術（音楽）～

◎授業者より

・本校は琴が豊富で、正月に向けて題材を選んだ。

・生徒の興味関心を創作活動に活かしたかった。

・配布物の量と紛らわしさにより、ねらいがうまく伝わらず、途中で説明し直した。

・記録までを時間内に終えたかったが、本時は「作る」部分をメインに行えば良かった。音のキャッチボールをさせれば良かった。生徒たちの達成感に繋がるような授業を行っていきたい。

◎参観者より

・生徒がいきいきと活動していて良かった。

・中学校では黒板に「めあて」・「学習課題」を示し、生徒がゴールを分かりやすいようにしている。

・楽器で遊ばせることから色々なことを学ぶことができる。

・自由に作って良いものか、替手のイメージがはっきりしなかった。

・手法をもっと狭めてあげれば、作りやすかったのではないか。

◎指導助言者より

・生徒たちに何を行えばいいのか、何がゴールをなのかをはっきりさせることが大切である。ゴールがよく分からなかったことが残念だった。

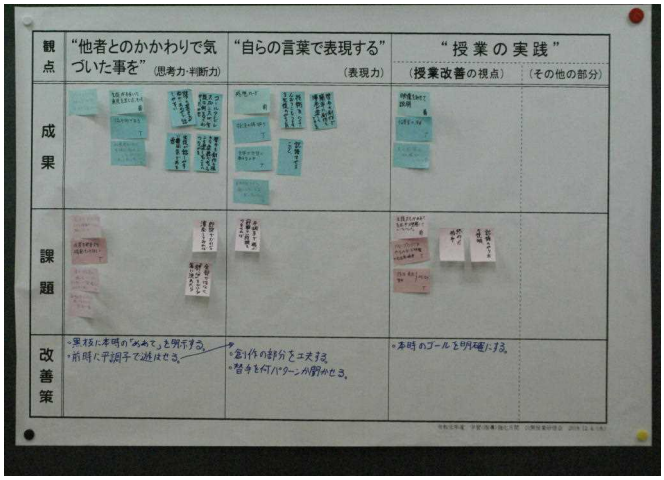
・替手とは何かの説明がもっと必要であった。

・生徒は「琴を弾いた。」という感覚はある。しかし、「創作したな。」という感覚は持てていない。

・「さくら」は有名で取っつきやすい部分もあるが、創作の幅が広がらない可能性も。

・まずは、一人で作成し、グループワークで他者の意見を聞き、深めていく。他者と関わる前に、自分の意見や考えをしっかりまとめていく。

・「題材の目標」の立て方に工夫を。「ねらい」は生徒にその１時間で付けさせたい力を端的に表すもの。



～ 外国語（英語）～

◎参観者より

・３グループずつに分けるなど、JTE と ALT が役割を分担しており TT の良さを活かしていた。

・机間指導時に教師が、座ったりしゃがむなど、視線を生徒と同じにしている。

・生徒がより良い表現ができるように、どのような点に注意すべきかを Presentation Skills として提示し、生徒に常に意識させるようにしていた。

・生徒と生徒、教師と生徒のコミュニケーションが非常に活発である。

・生徒がまちがいを恐れずに自己表現を楽しみながら発表している。

・事前の指導が大変丁寧で、生徒が自信をもって発表している。

◎改善策として話し合われたこと

・他のグループの発表の評価をしているが、オール３の評価が多いため改善が必要なのではないか。

・振り返りや気づきの時間（自己評価と他者の評価）の時間の確保が必要なのではないか。

・他のグループの発表を理解できたかの確認方法に工夫が必要なのではないか。

・聴いている人を説得するという目標であったが、もう少し段階を踏まえた、生徒の実態にあった目標設定をしたらどうか。

・発表までの練習時間の取り方、活動時間の区切りにメリハリを。

・丁寧な指導と時間配分のバランスをとることで、授業の見える化をはかるとよいのではないか。

◎指導助言者より

・本時の目標は生徒の学習課題になっているので、生徒にどのような力をつけたいのかを目標にするとよい。

・目標はSMARTに。

S＝specific　特定する、しぼる　　… 50分の中でつけさせたい力

M＝measurable　生徒の力を評価できるものか

A＝attainable　達成できるものであるか

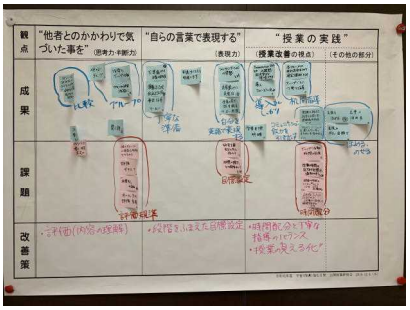
R＝related　生徒・現在の時勢に関連しているもの　　… 興味関心をひくもの

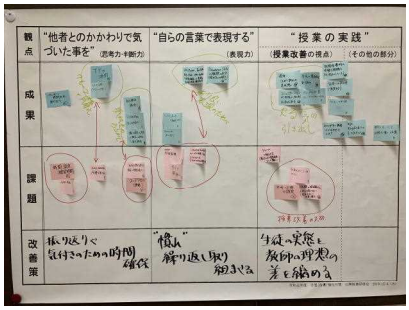
T＝time bound　授業のどの時点で目標を達成させるか

（本時の授業では、発表を目標としたなら、授業開始から45分の時点で目標を達成している。）

・パワーポイントや動画などを活用して、発表するスポーツの写真や動画を見せながら発表してもよいのではないか。

… デジタルリテラシー





～ 情報 ～

◎授業者より

男子8名、女子2名のクラスである。インターネットや情報コンテンツに興味のある生徒が多く、スマートフォンで写真撮影することは日常のことであるため、この単元についての興味がある。

情報科で学ぶ生徒として、撮影した写真がどのような情報を含んで保存されているかを理解し、画素数や保存形式により記憶容量をおおよそ計算できるようにし、適切な利用方法や保存方法等を含めて考慮できるようになってほしいと考える。

現在、第２章「情報の表現」における４節「画像による表現」の単元１「画像表現の基礎」に取り組んでおり、３時間中の３限目にあたる。

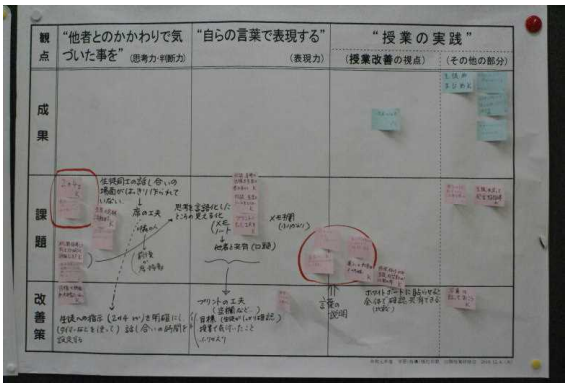
本時ではディジタル画像のしくみを手作業で再現し、１ビット（２階調）と多階調（４階調）の情報量と再現度の違いを理解できるように授業を進めた。

◎グループ協議より

【１班】 生徒の学ぶ姿勢がとても良かった。また、冒頭で授業者自身の写真を使って階調の異なる写真形式の違いを明快な説明で認識させたり、説明の時間と作業の時間のメリハリなどはよかった。

塗りの作業自体は、マスの塗りつぶしに手間がかかり、早くできて持て余す生徒がいたので予め時間を明示するとよいと思う。４階調の画像についても、塗りわけするのではなく４パターンの線描画にするなどの工夫で手間や時間の効率アップが図れたと思う。

隣席との見比べ・話し合いの場面がなかったので、話し合いやその内容を発表させる場面を設けて『他者との関わりでの気づき』を得られるようにすべきであった。



【２班】 生徒がまじめで、生徒のペースで授業が進められていた。また、全体的な呼びかけに対しても生徒からの答えが返ってくるなど、生徒との良好な関係性がうかがえる。ただ、発言の際には席を立たせるなどのけじめはつけるようにしたい。

『他者との関わり』の側面では、生徒同士の話し合いの場がはっきり設けられていないので、生徒への指示（机移動で２か４で組ませる）や、タイマーで話し合いの時間を決めるなど、工夫が欲しかった。

『自分の言葉で表現する』の側面では、もっと空欄を設けるなどプリントを工夫して、生徒が授業の目標をしっかり確認して、授業で気づいたことやふりかえりしたことを書き留めることができるようにしていくべきであろうと思う。

◎指導助言者より

授業者本人の顔写真を提示して導入に対する興味関心を引き付けたり、簡潔に生徒に支持を出すなどの工夫が見られた。考える時間というよりは作業時間が多く、公務で忙しい中での授業ということで準備不足な部分が感じられたのは残念だった。生徒がイメージしにくい単元をわかりやすくすることはこの授業以外でも大事な部分であると思うので引き続き教材研究に力を入れてもらいたい。

新学習指導要領において、プログラミング教育が小中高で導入される。情報教育の中核であることから、中高連携・教科間連携も極めて重要になる。本校においても単元「音の表現」での音楽科との連携、「グラフィックデザイン」における美術科との連携が行われており、より高レベルの授業展開が期待されている。

国内のＩＴ人材の大半は未だに「受託開発ソフトウェア業」に携わっており、「問題解決のための設計・プログラミング・実装」に終始しているのが現状である。次世代のＩＴ人材には「新たな事業・サービスを生み出せる事業創造能力」が求められるので、これが今後情報を学ぶ生徒を育てるためのヒントになり得る。

本校を牽引していくのは情報メディア科であり、他教科の先生方も協力して情報メディア科が生き残れるように盛り上げていってほしい。